

平和カンパをありがとうございます

2019年8月 ベラルーシ「希望」
『腫瘍病・血液病・その他の病気の子どもたちのための特別保養』
チェルノブイリ子ども基金

チェルノブイリ事故による影響は、次世代の子どもたちにも健康被害を及ぼしています。平和カンパは、病気の子どもたちの健康回復を目的とした保養のために使わせていただきました。

ベラルーシの子どもの保養

- 場所：子どもリハビリ・健康回復センター
「ナデジダ（希望）」 ミンスク州ビレイカ地区
- 期間：2019年8月2日～8月25日（24日間）
- 参加者：子ども32人（8～17歳／ゴメリ市、レッチツァ市、スヴェトロゴルスク市、カリンコヴィチ地区、ホイニキ地区、ゴメリ地区）、引率者2人（教師1人、看護師1人）
- 参加者の病名：脳腫瘍、目の腫瘍、精巣腫瘍、卵巣腫瘍、腎臓がん、肝臓がん、甲状腺がん、神経芽細胞腫、筋線維芽肉腫、リンパ管腫、血小板減少性紫斑症、血管腫。

バスで到着した子どもたちは、ナデジダの小児科医が診察し、それぞれの子どもに治療プログラムが立てられます。参加した子どもたちは腫瘍病、血液病の他、背骨、呼吸器官、心臓や胃など、他にも健康上の問題があります。そのような子どもたちの健康回復のために、個別の治療、食事、催し物、クラブ活動、心理サポートが行われます。

保養が行われたナデジダでは、同時期に、汚染地区の学校から保養に来ている子どもたち、病気の子どもと親のプロジェクト（以上2つは国のプロジェクト）、他の外国NGOの支援による保養プロジェクト、スポーツクラブの合宿の子どもたちなどが滞在していました。グループの枠を超えて子どもたちは交流をし、仲良くなっていました。



<医療>

医師の診察後、子どもたちそれぞれの体調に合わせた治療計画が作られます。一人の子どもが以下より3～4種類の治療を受けます。

：薬草茶、酵素カクテル、アロマセラピー、マッサージ、水療法（マッサージ効果のあるシャワー、ジャグジー、薬草入りの風呂）、ステレオセラピー（天然の岩塩で囲まれた部屋で過ごす。呼吸器官の病気に効果がある）、運動療法。屋外の小さな公園の中に、「感覚の小道」というコーナーがあります。ドイツの団体により作られたもので、木の実、苔、さまざまな形状の石ころ、コルクなどが順番に敷き詰められており、手すりにつかまりながらその上をゆっくり歩く、というものです。横には、足裏のツボと効果が描かれた看板があります。子どもたちはこのコーナーが大好きで、天気の良い日はそこを歩き、「気持ちがいい」「ちょっと痛い」とはしゃぎながら歩きます。

<食事>

栄養バランスの取れた安全な食事1日3回のほか、軽食が3回提供されます。ナデジダの敷地内にある自前の農場では、ドイツの支援団体から指導を受けた環



境に配慮した農業が行われています。食事には、野菜、果物、果物の無添加ジュースなどが毎日出されます。軽食には乳製品や、果物、食堂で手作りされた菓子パンなどが出されます。パンや菓子類のある売店もありますが、食事・軽食とも十分な量が出されるため、買い物の必要はほとんどありません。

<心理>

保養の効果を得るためには、グループ内の良い雰囲気は欠かせません。子どもたち同士がお互いを知り、仲良くなるための手助けとして、グループで楽しめる催し物が心理カウンセラーによって行われます。心の問題を抱える子どもには個別に、またはそのような子どもたちだけのグループでカウンセリングが行われます。今回のグループでは4人の女の子たちに、自律訓練法、アートセラピーなどが行われ、心身のリラックス、自分の心を自制する、人に心を開くこと、などを得ました。効果を実感した彼女らは、薬だけでなく、心理療法の健康回復に役立つことに驚き、「このような興味深い療法は、他にも必要な人にもっと教えてあげたい」と言いました。

<教育活動・催し物・クラブ活動>

保養の大きな課題の一つは、それぞれの子どもが前向きな気持ちになれるような雰囲気をつくること、それぞれの才能を見つけ、それを伸ばせるようにすることです。その意味で、催し物やクラブ活動も、保養の一環として行われます。

施設内にある資料館には、かつて子ども基金が贈った「チェルノブイリ原発 30 キロ圏内立体模型地区」があります。これを使って子どもたちはチェルノブイリ事故とその影響について学びます。また環境教育にも力を入れています。自然環境の大切さを、ナデジダで行っている太陽光エネルギー、木質チップによるバイオマスエネルギーから学び、また生活の中でゴミの分別を行っています。

施設では毎日催し物があり、グループ単位や、個人で参加します。お芝居やダンス、歌を舞台上で披露



したり、ゲームや絵のコンクールに参加したりします。仲間同士一緒に考えたり、一緒に作ったり、練習したりする中で、結束力が高まります。コンクールで賞を取ったりすると、みんなで大喜びです。クラブ活動には、手芸、絵画、シンセサイザー、木工細工、陶芸、折り紙を含む紙細工などから、いくつか好きな教室を選べます。

天候の良い時にはなるべく自然の中で体を動かしながら過ごすようにします。施設内の林の中を散歩したり、サイクリングをしたり、湖まで散歩にいたりします。施設内には多くの遊具もあります。

このようなことを通じ、子どもたちは心身ともにリラックスし、心から楽しみ、仲良くなり、保養の効果が高まる、と考えられています。参加者の年齢は8～17歳と開きがありましたが、大きい子は小さい子の面倒を見ていました。小さい子でも、率先して先生たちの手伝いをする子もいました。保養の最後に行ったアンケートでは、全員の子どもが「またナデジダに来たい」と答えました。

<参加した子どもたちの感想>

★このような素晴らしい保養に招待してくれた日本の子ども基金に深く感謝しています。私たちはナデジダで心から楽しんで過ごしました。(アーニャ 16歳 レチツァ市)

★毎日色々な催し物があった。僕は友達と過ごしたごとと、陶芸教室が特に楽しかった。またここに来たい。(イワン 9歳 モーズィリ市)

★私たちのグループの引率者、ナデジダのお医者さん、看護師さん、先生たち、みんな優しかった。日本のみなさんありがとう。(リーザ 10歳 ゴメリ市)



チェルノブイリ子ども基金

〒177-0041 東京都練馬区石神井町3-16-15-408

TEL/FAX 03-6767-8808 E-mail cherno1986@jcom.zaq.ne.jp

HP <http://ccfj.la.coocan.jp/>